

ICCAIAモントリオール2019年春期会議参加報告

ICCAIAモントリオール2019年春期会議が平成31（2019）年2月5日にカナダ・モントリオールにて開催されたのでその報告を行う。

1. 議長の交代

2019年初よりAIA（米国航空宇宙工業会）専務理事のEric Farning氏が任期2年のICCAIAのChair（議長）となった。予算負担比率の大きさからAIAとASD（欧州航空宇宙工業会）で交互に議長に就いている。Eric氏は米国国防省出身で、2017年よりAIAに勤務している。

2. 予算

ICCAIAのICAO駐在員2名をパートタイムから常勤とするために、カナダ、ブラジル、ロシア及びSJAC負担分は2倍（AIA／ASDは3倍）となる。ICAOでの情報収集活動を強化し、他の団体（IATA-国際航空輸送連盟等）に負けないプレゼンスを確保していくこととした。

3. 駐在員

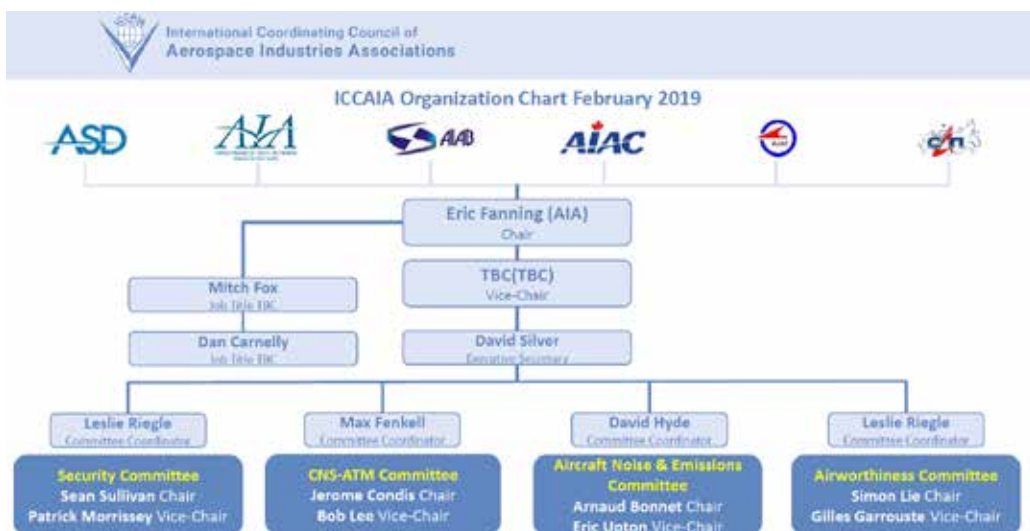
採用内定者については、カナダの就労ビザを申請中。

4. ICCAIAのガバナンス

各専門委員会の運営ルールを定めたBy-LawがボードのBy-Lawと矛盾する箇所や欠陥があることが説明され、今後確認作業をAIAにて進め、継続審議していくこととなった。各専門委員会にCommittee Coordinatorを置くことの提案があり了承された。

5. 新規加盟団体について

インド・イスラエル・メキシコ・シンガポール等をその国の航空宇宙産業分野の売上げ規模からTier1候補として加盟を働き掛けていく



新議長等が入ったICCAIAの組織図（ボード資料より）

こととした。その次の候補（Tier2）候補としてマレーシア、UAE、南アフリカ、フィリピン等の名前が挙げられた。なお、中国は規模として大きい政府と産業界が一体であり、産業界として独立した活動ができるのかとの懸念があり、参加の働きかけは行っていない。

6. ICAO関連での活動報告

① 第13回 Air Navigation Conference (2018年10月開催)

9月24日から開催される第40回ICAO総会に向けて総会で討議されるW/P（Working Paper）について提案者が概要を説明する会議であり、ICCAIAとして航空安全と航空管制に関して5本のワーキングペーパーを提出した。

（注：この会議についてはSJAC会報H30年12月号P31～の報告を参照されたい。）

② 第2回 Air Security Conference (2018年11月開催)

空港のセキュリティー等の物理的なセキュリ

ティーについての討議が多かったが、サイバーセキュリティーについてもセキュリティー情報の適切な共有を含む戦略の立案やICAOにサイバーセキュリティーの専門委員会（Panel）の設立に向けての検討が始まった。今後も動向を注視していく。

③ ICAO事務局のリストラクチャリング構想

現在の5部局構成を担当部局の重複を避け担当分野を明確化するためにマトリックスマネジメントを導入する案が出ているとのこと。ICCAIAの活動への影響もあるので注視して行くこととした。

④ 第40回 General Assembly（総会）

9月24日～10月4日にかけて第40回総会が開催される。ICCAIAとしては各技術専門部門より各々1つのワーキングペーパーの提案を行っていくこととした。

7. ICCAIA技術専門部門からの活動報告

（注：この項は秘密保持に係る内容もあるので、公開可能な範囲での記述となる。）



Upcoming Events of Interest

State of the Industry Presentation	7 June
Council Off-Site Strategy Meeting	10-11 June
5th ICAO World Aviation Forum	22-23 September
40 th General Assembly	24-4 October
Election of the President of the ICAO Council	General Assembly
75th Anniversary The Convention on International Civil Aviation	General Assembly

← 総会

ICAOでの2019年の主要行事（ボード資料より）

① Aircraft Noise & Emissions (航空機の騒音・排気に関する技術専門委員会)

2月4日から15日の間に開催される第11回CAEP会議において騒音、排気、CORSIA等の技術課題につきレポートや会議での専門家としてのコメントを行っていく。今後は今回のCAEP会議において技術的課題となると予想される、超音速旅客機 (Supersonic) の騒音基準、nVPMに代表される排気基準、CORSIAの運用に取り組んでいく。また、ICAOが取り纏めたGAEP (Global Aviation Environment Plan) についてもモニターしていく。(注: CAEP-Committee on Aviation Environmental Protection の略、航空環境保全委員会)

② Airworthiness (運行と安全に関する技術専門委員会)

FAA (米国連邦航空局) とEASA (欧州航空局) の航空安全に関する年次定例会に合せてICCAIA技術委員会の会合を開催している。貨物室のハロン交換についてもICAOが期限としている2024年導入に向けて専門委員会 (Advisory Group) を設けて現在技術準備レベル7の新技术についての検討を進めている。

③ Security (サイバーセキュリティー関連の技術専門委員会)

打合せはテレコンにて行い、昨年は5回実施した。ICAO内で正式なサイバーセキュリティーの委員会設立に向けて検討が始まっており、関係する検討会にも参加している。

昨年10月実施の第13回 Air Navigation Conferenceにも関連するワーキングペーパーを提出した。

④ CNS-ASM (管制関連の技術専門委員会)

各種の分科会を設けて活動中。ICAO委員会や会議にも出席し、専門家としてのコメントをおこなっている。

8. まとめ (所感)

今回は同時期に開催されていたICAO会議 (第11回CAEP) へICCAIAとして提出する討議資料 (Working Paper) の一つで欧州と米国間で意見の相違がありボードにて提出可否を採決するとの今までにない動きがあった。ICCAIAとしては産業界として専門的かつ技術的なコメントを行うとの基本的な立場を踏まえての今後も議論を進めていくべきと考える。

なお、ICCAIAのボードに先立つ2月4日にICAO内にある日本政府代表部を訪問し、理事会日本政府代表 松居氏、代表代理 大島氏、同 宇佐美氏とICAO関連での情報交換を行った。

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 国際部長 羽中田 実〕